令和５年４月

令和４年度　認定こども園むつみ幼稚園　施設評価

保護者向けアンケートの結果を受けて

・アンケート結果では今年度もおおむねＡ・Ｂの評価をいただいた。個別の課題（「保護者向けアンケート回答中の感想、要望」参照）に関しては、今後の検討を経て可能なものから改善に努めたい。尚、今年度もコロナ禍により園児の活動・行事が規模縮小や中止等とはなったが、衛生面に配慮した園内環境の整備や久々の保育参観、音楽･お遊戯会開催等、安全･安心な園生活の継続と家庭への情報提供の両立を着実に進めることができた。この点に関しても多くの保護者から評価をいただけたと感じている。一方で、依然として園児の様子を知ってもらう機会がコロナ禍前に比して少ない状況にあることから、今後、寄せられた意見や要望に対して真摯に耳を傾け、昨今のコロナ禍の落ち着きや社会状況も踏まえつつ諸活動実施と園児の安全確保の両立を図るよう、さらに工夫を重ねてまいりたい。
・新型コロナウィルス感染拡大予防の対応については、引き続き情報収集や関係機関等との連携に注力し、教育･保育活動に関する本園の方針を速やかに保護者に知らせるよう努めた。園内での予防策の徹底に加えて各家庭のご協力のおかげもあり、感染拡大を最小限にとどめることができた。園児達の成長した姿や元気に活動する様子を直接見ていただく機会を思うように設定できなかったが、一方で園児達の安全を優先した運営に多くの励ましや賛同の声をお寄せいただいたことは、全教職員にとって日々の教育･保育業務における大きな心の支えとなった。
・保育内容については、本園の教育･保育活動へのご理解とご協力をいただき、深く感謝している。これまでコロナ禍の制限がある中でも工夫を重ね、「子どもの１０の姿」を踏まえて「頑張った！」という達成感や自信につながる豊かな体験、一人一人の育ちを認める教育･保育活動の実践に努めてきた。今後とも、教育方針等について説明を丁寧に行った上で諸活動を進めていきたい。
・以前に要望があった本園ホームページの運用に関して、日常の園児の様子や行事の画像アップ、写真購入等を導入し、好評をいただいている。引き続き有効な活用の取り組みを進めたい。
・多様なご要望の全てに応えることはなかなか難しいが、寄せられた意見を踏まえ、さらなる保育活動の充実を進めてまいりたい。

園の教育及び保育活動についての保護者向けアンケート

日頃より、本園の活動にご理解いただき、ありがとうございます。　　***【回答　８２／１００】***

本園では、保護者の皆様からのご意見を伺いながら、よりよい園作りを目指して計画を進めているところです。つきましては、一年を振り返り、次の事項について、当てはまる欄に〇印をつけてください。

アンケートにつきましては、ご回答いただきました内容を十分に検討した上で、来年の計画に生かしていきたいと思います。

Ａ…よく当てはまる　　Ｂ…やや当てはまる　　Ｃ…あまり当てはまらない
Ｄ…まったく当てはまらない　Ｅ…よくわからない

	評価の観点	A	B	C	D	E
1	本園は園だより「むつみ」で保育のねらいを伝えています。	64	18			
2	本園は、幼児が豊かな経験ができるよう特色ある活動を行っています。	63	17	1		1
3	本園は、幼児が安定した気持ちで生活できるよう配慮しています。	60	22			
4	本園は、基本的生活習慣が身に付くよう、働きかけをしています。	65	17			
5	本園は、安全や、健康、清潔に過ごせるよう配慮しています。	59	22	1		
6	先生は、幼児のことを理解しながら、指導しています。	61	20			1
7	幼児は、園で遊ぶことを楽しみにしています。	64	17		1	
8	幼児は、いろいろな生活経験や、友だちとのかかわりから、興味・関心が広がってきています。	64	15	1		
		未回答２				
9	保護者は、家庭での子どもとの触れ合いを大切にしています。	65	15	2		
10	保護者は、子どもの健康を配慮し、園に登園させています。	69	12	1		
11	学年だよりから園での生活や様子がわかります。	44	36	2		
12	園生活を通して、子どもの成長を感じています。	79	3			
13	保護者は、子育て支援活動のにこにこキッズルームについて知っており、それを地域の人に伝えています。	15	23	33	6	5

令和４年度　園評価

令和４年度　園評価

＜感想＞

◎先生たちがしっかり見て下さるので、安心して預けることができる。
◎毎日、先生や友達と遊ぶのを楽しみにして通っている。降園時も、ニコニコ楽しそうな姿を見て、いつも安心している。
◎いろいろな工夫をして、日々の教育や保育、行事などをして下さり、感謝している。
◎園での活動を通して、新しいことに挑戦しようとする気持ちや自信をつけている姿、友達との関わりが増えた様子から、たくさんの成長を感じ、日々感謝している。
◎家庭でしなくなった昔の遊びで、友達と集中して取り組んだり競い合ったりすることを通して、成長を感じ、家族の会話も広がった。
◎自然豊かな環境の中で、様々な経験を通してたくさんの成長が感じられる。
◎毎日幼稚園に行くのを楽しみにしており、先生への親しみを感じている。
◎お話が上手になって園での様子や習った歌などたくさん教えてくれるようになり、感謝している。
◎遊びだけでなく、生活習慣や挨拶、歌、遊戯など様々なことを教えてもらい、感謝している。
◎コロナと共に過ごした３年間だったが、いろいろ対策を練って下さり、感謝している。子ども達がマスクをせず、元気にコロナ前と同様に過ごすことができるよう祈っている。バザー等も再開されることを願っている。
◎懇談会の際に、よく子どもを見てくれていると感じられて大変嬉しく、感謝している。
◎学年だよりで園での生活を感じることができる。
◎日常の写真をたくさん撮ってもらえて、とても嬉しかった。
◎子どもの姿から、家庭でどのようなサポートをするとよいのか、具体的に教えてもらえたことは、日々忙しい中でとてもありがたかった。
◎食事に対して消極的なので、対応が難しかったと思うが、毎日のことで「食べさせること」に固執して苦痛になることを避けたかったので、その気持ちを汲み取ってもらえ、感謝している。
◎以上児の保育参観がなくなり残念だったが、ホームページでの動画や写真で日頃の園での様子が分かったのでよかった。見るのが楽しみである。今後も時々でいいので、日頃の姿(何でもない日常)の動画配信があるとありがたい。
◎お遊戯会はＤＶＤでも十分満足していたが、やはり生での姿は緊張感が伝わり見応えがあった。
◎合奏や遊戯等を通して、頑張ることや皆でひとつのものを作り上げることができたことはとてもよい経験になり、喜びや自信につながったと思う。
◎コロナ禍で行事や保育参観などが少なく残念だった。来年度は、少しでも園に足を運ぶことが増えることを期待している。
◎以上児に比べ、未満児の大きな行事がなく、少し寂しさを感じる。
◎未満児はあまりにも行事がないため、子どもの様子が全く分かりにくい一年だったので、園の中での成長が保護者に伝わる手立てが必要だったのではないか。
◎コロナ禍でできなかった分を補うべく、たくさん楽しい経験をさせてもらえると嬉しい。
◎アプリで登･降園時間が家族共有できると、安心でき便利だと感じる。
◎クラスで何かトラブル(友達に手を出す等)があれば、その都度、教えてもらえると嬉しい。

＜要望＞

◎コロナ禍の対応について
- 医師が必要ないと判断したにも関わらず、PCR 検査を受けるような現状は、子どもの負担や費用を考えると、緩和してはどうかと思う。
  ⇒町からの指示に従い、発信していきたい。
- マスクの着用を任意にしてほしい。
  ⇒社会の情勢を受けて、４月から任意にする予定である。
- 行事の再開や人数制限の緩和など検討してほしい。
- 保育参観や説明会などの時、預けられなかったり仕事をわざわざ休んでもらわないといけなかったりするので、下の子(赤ちゃん)を連れていけないのを大目に見てほしい。
- 少しでも園庭の利用ができると嬉しい。
  ⇒現時点では、社会の情勢を受けて徐々に緩和する方向で進めたいと考えている。

◎音感教育について

・「むつみ」や学年だよりで音感教育の目標や取り組んでいる様子等がわかるとさらによいと思う。

⇒いただいた意見を参考に、工夫しながら取り入れていきたい。

・音感教育を参観する機会があるとよい。

⇒状況を見ながら、何らかの形で発信していきたい。

◎保育について

・テレビ保育の必要性は、今の時代に合っているのか疑問だし、子ども達へのメリットがよくわからない。テレビがなくても、自由遊びや絵本で十分だと思う。

⇒お迎えが多い時間帯以外はそのように保育しているが、保育者の業務実態に照らしながら、今後は最小限の時間ににとどめるよう努めつつ継続したい。

・年少児も、成長に合わせ昼寝をさせてもらえると助かる。

⇒子どもの実態に応じ、少しずつ移行していく予定である。

・遠足は、家庭でもよく出掛ける場所なので、もう少し遠足らしい場所にしてほしい。

⇒その年毎の子ども達の状況や安全を見極め、検討していきたい。

・立山青少年自然の家での雪遊びの時、立山青少年自然の家で昼食を食べてきてほしい。

⇒子ども達の雪遊びでの状態を考慮し、園で昼食を提供している。

・仏教園ではあるが、クリスマス会をしてほしい。

⇒行事精選の方向性とも併せて、今後の検討事項としていきたい。

・水遊びや雪遊び、創園記念式などの準備が、２～３日前というのは大変厳しい。

⇒保護者が余裕をもって準備できるよう心掛けてきたが、今後より一層の配慮に努めたい。

◎給食について

・子どもが喜ぶと思って作っている一方で、働く母親が作ることに疑問を感じることがあるので、手作り弁当を学期ごとで１回に減らしてもよいと思う。

⇒様々な家庭や思いがあることに寄り添いながら、よりよい方法を模索していきたい。

・給食の参観ができるとよい。

⇒今後、時期を見て実施できるよう検討していきたい。

◎むつみ会について

・むつみ会は、ほとんどの保護者が働いているという現状なので、全園児の保護者が一度は参加し、みんなで協力していくという形でもよいと思う。

⇒ “園と保護者は子ども達の成長を支えるパートナー”であることへの理解を広げるとともに保護者の意向を踏まえつつ、より多くの保護者の皆様にむつみ会の活動に参加・協力いただけるよう呼びかけていきたい。

◎その他

・「すぐーる」を情報や連絡の伝達手段としてとして、もっと活用してほしい。

⇒原則として立山町からの緊急連絡手段を前提として導入されたシステムであり、本園ではあくまでも情報の緊急性や重要度を考慮して活用してきている点を了承いただきたい。

・欠席をメールで連絡できるようにしてほしい。

⇒今後、実現への条件整備の可能性について検討していきたい。

・写真は、ダウンロードできるものになると嬉しい。

⇒現状では想定していないものの、そうした要望をいただいたことを認識しておきたい。

・個人情報の管理という観点からも、携帯への連絡は、園の番号からかけてほしい。

⇒園の電話から連絡するよう、職員間で再度、共通理解を図りたい。

・誕生色紙の写真の表情が暗いので、笑顔のものにしてほしい。

⇒撮影時、子ども達が笑顔になるよう心掛けているので、継続したい。

・駐車場フェンスの「むつみ幼稚園」の「む」の看板がないのは修繕した方がよいと思う。

⇒予算捻出を検討して、早急に修繕を図りたい。

※　新年度当初に業者に依頼し、５月１７日に修復を完了しました。

保育教諭の『人権擁護のためのセルフチェック』の結果を受けて

・県内外の保育施設で幼児虐待事案が発生し大きな社会問題となったことを受け、本園では全保育教諭を対象に、保育を行う上で必要な“子どもを尊重する”ことや“子どもの人権擁護”について一人一人が改めて意識を高め自らの保育を振り返ることを目的として『人権擁護のためのセルフチェック』を実施した。これを、無意識のうちに“子どもを置き去りにした保育”や“保育者の都合ですすめる保育”を行っていないかの自己点検の機会として、さらなる保育の質の向上を目指してまいりたい。
・実施に当たり、人権擁護の視点から「『よくない』と考えられるかかわり」を以下に示す５つのカテゴリーに分け、各チェック項目に照らして振り返りを行った。

【カテゴリー：「よくない」と考えられるかかわり】
(1) 子ども一人一人の人格を尊重しないかかわり
(2) 物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ
(3) 罰を与える・乱暴なかかわり
(4) 一人一人の子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり
(5) 差別的なかかわり

・令和４年度も本園では保育教諭一人一人が『教育･保育要領』に示された内容に基づく保育者としての基本を踏まえた上で、自分の実践を振り返って課題を見出し、目標と計画の下に改善を進めてきた。そうした振り返りを基に、今回の『人権擁護のためのセルフチェック』の結果と併せて、今後も各保育教諭の主体的な自己研鑽から教育･保育内容の質的向上から園全体として目指す教育･保育理念の具現化を進めるという方向性を確かなものとしていきたい。

・各保育教諭が園児一人一人を丁寧に見取り、把握した心身の様子や状態を共有した上で支援や活動を進めるなど、保育者同士の連携による適切でスムーズなクラス運営や学年運営が実現できた。
・長期にわたるコロナ禍の下で様々な制約がある中でも、多くの保育教諭が園児一人一人との関わりを大切に、丁寧に寄り添いながら成長を見守ろうと努めてきた。また、保護者との情報交流や相互理解を深めようと工夫したり、迅速な対応や連絡ノートでの細やかなやりとりを心がけたりしたことで保護者からは概ね好意的な意見が多く寄せられた。今後も、園だよりや学級だより、連絡ノート、ホームページ、「すぐーる」等の情報伝達ツールを活用し、家庭と園との情報交換や心の交流を進めていきたい。

令和４年度　『人権擁護のためのセルフチェック』振り返り　回答（抜粋）

Ｒ５年３月 実施

＜子どもを尊重する保育のために＞

「振り返りシート」から

・「相手の立場に立って行動する」ことの大切さに改めて考える機会になった。互いに指摘し合い、気付いて改めようとする雰囲気づくりも大切にしたい。
・自分の保育の姿を振り返るよい機会となった。文面のみでは判断しにくい項目もあったが、意識しながら今後も気を付けて保育に当たりたい。
・自分に余裕がない時、子どもに対してやや強く接してしまうことがあった。なぜ余裕がなくなるのかを考え、今までのやり方を柔軟に変えてゆとりが出来るよう工夫することが必要だと感じた。
・今回のようなセルフチェックを定期的に行うことで、保育教諭一人ひとりが子どもを尊重したかかわりを心がけ、意識を高めていけたらよいと思う。
・日々の忙しく慌ただしい保育の中で、つい見落としてしまっていたことがあることに気づかされた。
・子どもの自主性や気持ちを大切にしてかかわる事が大切だと改めて感じた。
・集団生活をする中で、援助が必要な子の側に立つことばかりが多くなってしまっていた。その他の子どもへの配慮も忘れず一人ひとりに声をかけるようにしていたつもりだが、かかわりに偏りができていたのではないかと反省している。

(1)「子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり」について

・一人一人の失敗や苦手を否定せず、子どもの気持ちに寄り添いながらかかわるようにしている。
・まだ言葉で自分の思いを伝えられない子どもには、思いを汲み取って代弁するよう心がけてきた。
・日頃から、一人の人として子ども達にかかわり、伝えようとしている気持ちに対してしっかり受け止めることが大切だと思った。
・「待っててね」と話したい気持ちを止めてしまい、そのまま流れてしまったこともあった。その気持ちをおしまいまで聞き取りきるなど、子どもの気持ちを大切にするかかわりをしていきたい。
・クラスの子どもだけではなく、日常の保育でかかわる全ての子どもにも同じ熱意をもって接していきたい。
・不意のトラブルの際、場の状況と自分の判断で良し悪しを決め早急に対処しようとすることがあった。今後は冷静に場を見極め、子どもの立場を尊重して対処する必要があると感じている。
・次から次へと「先生」と呼ばれると一度に全員には対応できないことがしばしばあった。子どもの見てほしい、やってほしい気持ちを受け止めながらも、どの子の何を今一番優先するべきか判断し、子どもにも理由を伝えたうえで対応するようにしている。
・保護者と話をする際には他の保護者や子どもに聞こえないように配慮すること等の大切なポイントを細やかに他の保育者にも伝えるなど、共通理解を図りながら、保育教諭への信頼構築に努めたい。
・「お茶やおつゆをこぼすから後で配膳する」のではなく、「こぼさないよう子ども自身が考えて行動する」という視点で寄り添いながら、一人ひとりの育ちをみていくことが大切だと考える。

(2)「物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ」について

・「～したら～しようね」と肯定的な言葉掛けをするよう心がけている。又、「～して下さい」ではなく「～しましょう」と言葉をかけるよう留意している。
・毎日ではないが、あまりにも騒がしい時や危険な場面では「静かにしなさい」「やめなさい」等の言葉を使うことはある。思い通りにしたいわけではないが、迷惑している人がいる場合や時間が限られる場合にはそのような状況になる。今後は集団生活の中で、子どもが自ら気づけるような言葉がけを行うよう心がけていきたい。
・日頃から一人ひとりに目を向けて個々の性格を把握したうえで、それぞれに合った言葉がけや援助を行うようにしている。
・子どものしていることに対して「だめ」と否定する言葉は言わないよう留意して保育をすすめてきた。
・子ども達には自分の感情をすぐにぶつけず、一呼吸おいて冷静に対応するよう心がけている。
・子どもの気持ちを第一に考え、自分目線ばかりにならないことを大切にしていきたい。
・子どもが納得して行動できるような言葉がけを自信をもってかけられるよう、保育者としてしっかり成長していきたい。

(3)「罰を与える・乱暴なかかわり」について

・時折、走り回る子を制止することがあるが、危険な行動をとる前に配慮ができるようにしていきたい。
・移動の際、言葉を掛けてもはみ出して先に行こうとしてしまう時に繋いでいる手を引っ張ってしまうことがあったので、気を付けていきたい。わかりやすい言葉で伝わるように意識してかかわっていきたい。
・身体的、肉体的な苦痛を与えることは、決してあってはならない。今後も子ども達が日頃から安心して生活できるよう、言語環境や生活環境を整えるよう心がけていきたい。
・保育教諭として、まずは自分自身が気持ちにゆとりをもって接していきたい。
・危険を察知すると咄嗟に手を握ったり止めたりすることがあるが、痛いと感じさせないよう落ち着いて行動したい。
・何をしたらどうなるか、何をしなかったらどうなるか、行動と結果を子どもが理解し自ら選んで行動できるようにしている。罰ではなく、結果として捉えたい。
・手をつかむことがないよう、言葉で促すことを引き続き意識して保育に努めたい。
・保育の渦中にいると、つい感情的に子どもとかかわってしまう保育教諭の姿を見かけることもある。その保育教諭が自身の保育の姿に真摯に向き合い、どう子どもに接するべきかを主体的に考え気を付けようとする伝え方を工夫していきたい。

(4)「一人一人の子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり」について

・預かり保育の際に、お迎えが遅い子どもに保育者が「何時に来られるの？」と不安をあおるような場面もみられた。子どもが穏やかで温かい気持ちになるような言葉がけや雰囲気づくりを大切にするよう伝えていきたい。
・お迎えを待つ子どもに寄り添い「もう来られるよ」と話しかけたりお迎えを気にしないようかかわったりしていこうと思う。

・様々な家庭があることを理解し、対応していくことが大事だと考えている。(提出物、行事等は個別に知らせる、など)
・それぞれの子どもにそれぞれの家庭環境があることを十分に考慮し、本園として一人ひとりの子どもが望ましい育ちを遂げられるためにはどのようにかかわればよいかを考え、支援していくことが必要ではないかと思う。
・保護者の立場に立って、それぞれの保護者の思いを尊重して支援していきたい。また、保護者も子どもと一緒に成長している過程にあるという目ももちながら、保護者と子どもに寄り添っていきたい。
・保護者対応に心配がある場合には自分ひとりで勝手に判断するのではなく、主任の保育教諭にまずは相談するなど、適切で丁寧な対応を心がけるようにしている。
・家庭の環境や子どもの育ちの様子等、子どもを取り巻く状況について、様々な機会をとらえて職員間で情報共有し、保護者や子どもに寄り添う適切なかかわりを実現していくことが大切なのではないか。
・子どもや保護者の気持ちに寄り添えるよう、温かい言葉がけが出来るように努めたい。

(5)「差別的なかかわり」について
・子どもの個性を大切にすると共に多様性についても理解し、一人ひとりを尊重したかかわりができるようにしたい。
・日常の保育の中で、どの子に対しても分け隔てなく同じように対応することを心がけている。
・考え方や解釈の仕方は個々に違うものであると思うので、相手の立場に立って物を見て考えられるような保育者でありたい。
・子どもは刺激し合って育っていっている。その過程では、時にはできることを比べる姿も勿論ある。その中で互いを認め合える言葉を使うことができるよう、保育者も一人ひとりのよさを言葉で伝えていけるようにしていきたい。
・好き嫌いが多い子、食が細い子がクラスにいる。その子のペースに合わせて食事を進めるよう、日頃から気を付けている。

《令和4年度　施設関係者評価 集計結果一覧》

回答者6名

	評　価　項　目	A	B	C	D	E
1	本園の教育･保育理念に基づき園が運営されているか	100%	0%	0%	0%	0%
2	園の状況を踏まえた教育･保育目標等が設定されているか	100	0	0	0	0
3	園の教育課程の編成･実施の考え方について、教職員間の共通理解がなされているか	83.3	16.7	0	0	0
4	幼保連携型認定こども園教育･保育要領について、個々の教職員が理解しているか	83.3	16.7	0	0	0
5	指導計画の立案と実施が適切になされているか	100	0	0	0	0
6	幼保連携型認定こども園教育･保育要領に沿った乳幼児の発達に即した指導がなされているか	100	0	0	0	0
7	乳幼児の病気やけが等の情報提供が行われているか	83.3	16.7	0	0	0
8	日常の健康観察や疾病予防のための取組、健康診断が実施されているか	100	0	0	0	0
9	避難訓練等を通して、教職員･園児の安全対応能力の向上を図るための取組がなされているか	100	0	0	0	0
10	特別な支援が必要な幼児のための施設や学校の利用者との交流が図られているか	100	0	0	0	0
11	園と医療･福祉などの関係機関との連携がなされているか	83.3	0	16.7	0	0
12	職員会議、ケース会議等が定期的に行われているか	83.3	0	16.7	0	0
13	園内研修が定期的に行われているか	83.3	16.7	0	0	0
14	園外研修に参加しているか	83.3	16.7	0	0	0
15	自己研鑽による職員の資質の向上が図られているか	83.3	0	16.7	0	0
16	自己評価が行われているか	66.6	33.3	0	0	0
17	園に関する様々な情報提供（園便り、参観日等）が行われているか	83.3	16.7	0	0	0
18	園独自の保育体制や行事（宗教的情操教育、音感教育、マーチング活動等）が行われているか	100	0	0	0	0
19	子育ての支援（延長保育、一時預かり等）が行われているか	100	0	0	0	0
20	遊具、玩具、絵本等が整備されているか	83.3	16.7	0	0	0

【評価】 A…十分達成されている、B…概ね達成されている、C…どちらでもない
D…取組がやや不十分である、E…取組が不十分である